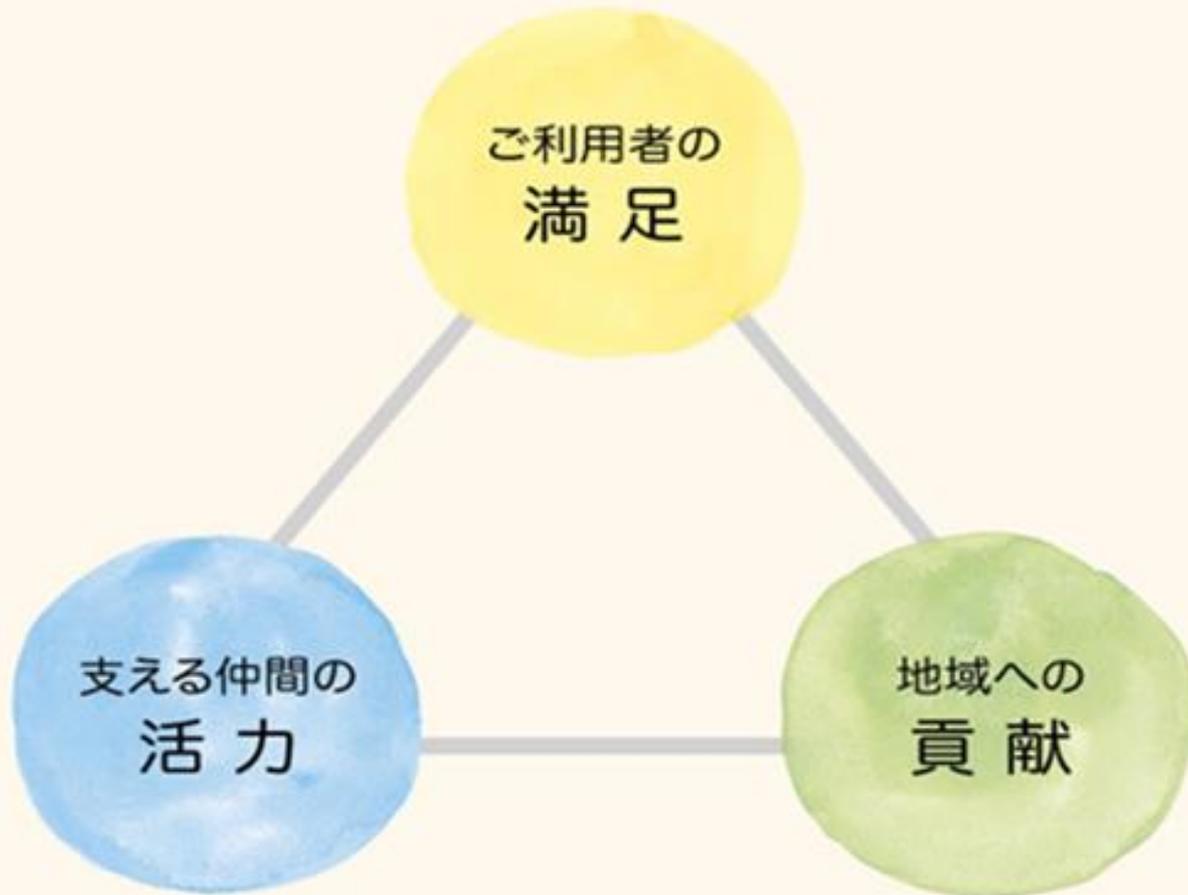


社会福祉法人かすみが丘学園

第1期中長期計画
(2019-2021年度)

経営理念



トライアングル・バランスの向上で学園運営の健全性を保ち、明日を拓く

中長期計画策定の背景と目的

中長期計画は、社会福祉法人制度改革（平成28年3月）により、法人が『施設経営』から『法人経営』への発想の転換が求められている中、当法人の経営理念である、

- 利用者の満足
- 支える仲間の活力
- 地域への貢献

の実現に向けた目標を明確に示し、継続性、計画性をもった自律的な経営が必要とされています。

また、社会福祉法人として求められる使命（ミッション）を果たす為、『**目指すべき将来像（ビジョン）**』を明確に定めることで、利用者への適切な支援、共に働く仲間の満足に向けた取組、環境や時代の変化に適応した地域活動等、より経営理念に基づく経営及び、計画の実現を目的に、2019年度から2021年度（3年間）を第1期とし、策定しています。

中長期計画の検討過程

日程	内容
1/15	中長期計画策定キックオフMT
1/15～22	各事業所に於いて、経営理念に基づく意見(強み・弱み・課題)の抽出
1/23～25	3つの経営理念に基づき、意見集約
2/6	時間整理マトリクスを基に、各意見の分類分け(A/B/B'/C/D)
2/8	ファシリテーター(3名)による、中間計画策定に向けた取り纏め方法摺合せ
2/18	中長期計画(仮) 第1段 検討 中長期計画コンセプト・方向性・将来像に関する意見収集
2/21	運営会議にて中間報告
2/27	コンセプトのまとめについて、ファシリテーター(3名)で検討
3/7	コンセプト決定
3/11	第1期 中長期計画 完成

時間管理マトリクス

時間管理マトリクス フレームワーク



【集約した意見を「緊急度」と「重要度」という2軸に分け、さらに5種類 (A/B/B'/C/D) のパターンに分類】

第1期中長期計画 コンセプト

『感謝でつながる笑顔』

一人ひとりの**想いの実現**を目指して
チームワークを大切に
つながる笑顔で**成長**する

ご利用者の満足
経営理念の実現と
心の成長をめざしていく社会福祉法人へ

支える仲間の
活力

地域への
貢献



経営理念

『利用者の満足』

『利用者の満足』①

□活動

利用者の意志を尊重し、年齢や障害特性に合わせた日課や日中活動、行事等を実施する。

その際、他事業所（他法人事業所含む）との交流や、地域の社会資源の十分な活用を意識し、活動内容を検討していく。

『利用者の満足』②

□ 生活面

利用者のQOL向上の為、より健康に配慮された環境で、ゆとりある生活を送り、1人ひとりの満足と、安心に繋がる支援を実施する。

また、衣食住、医療の他、社会性を養う為の教育や、趣味嗜好に合わせた余暇の過ごし方についても、全体や個人の両視点に合わせて、内容を検討していく。

『利用者の満足』③

□設備・環境

利用者の安心、安全、且つ快適な支援を講じる為に必要な環境・設備を整備する。

更に、支援する側（職員）に於いても同様に、業務が遂行される為に必要な事項の検討及び、実施に向けた取組を行う。

また、利用者と職員が、共に和やかな時間を過ごす事のできる空間（リラックススペース）について検討を進めていく。

『利用者の満足』④

□ 意思決定支援

支援とは、利用者個々の障害特性を十分に理解し、本人の意思や意見が尊重された個別支援計画内の願い（ニーズ）の実現に向け、共に支援する仲間（職員）や、関係事業所と連携し、様々な環境・場面において、1人ひとりに配慮され、統一した支援が講じられるべきである。

また、利用者の地域移行や、高齢化への対応（介護・ターミナルケア）に関し、当法人としての役割を明確にし、それらを法人に関わる全ての方に共通理解していく為の取組を検討していく。

『利用者の満足』⑤

□現状把握と業務の検討

これまでの業務・支援に対し、適正な評価を受け、それら評価に基づき、経営改善に向けた取組を検討する。

その際、当法人役員や現場職員、また、利用者の保護者が統一した考え方をもち、法人の経営理念に基づく業務や取組を、同じ方向性（ベクトル）の中で検討される体制を築く。

『利用者の満足』⑥

□ 支援の質の向上

職員のスキルアップ（支援の質の向上）に繋がる為の研修や、講習の機会を充実させる。それらにより、利用者の権利擁護・虐待防止など、安心と満足に繋がる支援に必要な知識や経験を積み、「信頼感のある職員」を育成する。

また、当法人の現状を明確に把握した中で、より充実したサービスを提供する為、実現可能な支援（制度・体制・設備等）を検討し、実現に向けた取組を進めていく。

経営理念

『支える仲間の活力』

『支える仲間の活力』①

□ 人財確保

先ずは、この「社会福祉法人かすみが丘学園」で働きたいと思う人財を確保していく。

当法人の良さ、働く喜びを発信させていくことも大事である。

一緒に働く人財の募集を強化させていく為に、リクルート業務体制は作っていくべきである。

『支える仲間の活力』②

□ 人財育成

働く職員にとっての人財育成は必須であり、利用者の方の支援の為、そして地域で働く者にとって常に探求すべきことである。

OJT、OFF-JTや法人内・外の研修等により、将来の為の礎を作り、そしてスキルアップ、フォローアップも心がけていくべきである。

『支える仲間の活力』③

□ 情報共有

当法人は、ライフ、コミュニティ、ワーク、ハーモニー、サポートなど、多くの職員が各セクションにて支援している。普段の支援について話し合う場は大事にしていき、事業所間の交流を作る。

（例：生活はコミュニティ、日中はワーク、のように複数事業所を利用している方の支援の確認など）

その中での職員間の意見交換をする場も確保していく。普段の悩み、愚痴を言える場は大切であり、様々なテーマで枠を設け、一人ひとりが意見を出しやすい場を大切にする。

『支える仲間の活力』④

□ 働き方の整理

普段の働き方の確認、見直しを行い、福利厚生についても充実を図っていく。

変則勤務ができない人は変則勤務のない部署への配置にし、ワークライフバランスを確立させ、風通しの良い、明るい職場を目指す。

『支える仲間の活力』⑤

□ その他交流

働く職員にとって、どういう働き方が良いのか、働きやすい職場とは、というのを考えていく。その中でも、職員間交流というのを広く見ていく。



経営理念

『地域への貢献』

『地域への貢献』①

□ 法人資源の活用（施設面）

法人資源を地域に還元することで、地域との距離を縮め地域に求められる拠点になれるよう心がけていく。

災害時には避難所としての役割を果たし、また避難住民に対しても専門性の高いサービスを提供できるよう日々検討していく。

『地域への貢献』②

□ レスパイト

緊急時受入や障害児、強度行動障害者の受け入れられるよう、人員配置や送迎等体制を整えていく。

また将来的には入所施設の強みを活かしながら、地域生活支援拠点としての役割を持てるようにする。

『地域への貢献』③

□ その他受入

ボランティアを受け入れることで法人や障害者についての理解を深めてもらい、その旨を地域に伝えてもらうことで、障害者を受け入れやすい地域に繋げていく。

また実習生の受け入れから、当法人で共に働く人財の確保と、彼らの育成を通じ、地域で専門的サービスが提供できる事業所へと成長していく。

『地域への貢献』④

□地域への働きかけ

職員それぞれ得意なスキルを活かした業務を行なうことで地域ニーズの解決に貢献していけるよう努めていく。

また法人行事での交流や、インターネット等様々な手段を使い法人の魅力を地域に発信していき、誰からも信頼され、頼られる法人を目指す。

『地域への貢献』⑤

□地域活動への参加

地域への活動に利用者と共に参加することで地域の一員としてお互いを認め協力し合うことで共生社会の実現を目指す。